

2007年9月27日

## CONEX KOREA 2007 出張報告

出張目的：CONEX KOREA 2007 展示会（2007年9月6日（木）－10日（月）5日間）にブースを設け、協会・研究所の紹介を行った。

### 1. 開催概要

主催者：KOCEMA（韓国建設機械工業会）

開催期間：2007年9月6日－10日

会場：KINTEX（韓国国際展示会センター）

会場面積：21,400㎡（屋内展示のみ）

出展者：183社（国内107社 海外76社 内：日本 21社）

### 2. 特記事項

今回は2年前と比べ、出展者数で約35%の増加となり、主催者であるKOCEMAは展示会の成功を表明していた。

日本製品に関しては様変わりで、前回（2005年）には全く展示が見られなかった日本メーカーが軒並み出展をしており、韓国市場に対する各メーカーの意気込みが感じられた。



日立建機



コマツ

今回初めて出展したメーカーは、コマツ、日立、久保田、IHI、KOBELCO、等があり、その他部品メーカーも含むと21社が参加していた。（現地代理店参加も含む）

ヤンマーは前回にも出展していたが、日本勢の攻勢に気を引き締めているのが、印象的であった。

機体メーカーは、各社とも主要戦力商品はミニショベルで、今後韓国での市場開拓に焦点を当てている。一方コマツ、日立は中型ショベル、ローダの展示も行なっており、これらはこれから本格参入をするとのこと。



久保田



KOBERLCO



I H I



諸岡

(参考：日本出展社一覧 --- 大和機工、日立建機、北越工業、I H I、J C M A、常磐製作所、神崎高級工機製作所、川崎重工、K O B E L C O、コマツ、久保田、三菱C A Tフォーク、三菱重工、諸岡、岡田研磨、大久保歯車、酒井重工、神鋼電機、住友精密工業、タダノ、ヤンマー)

従来は韓国メーカーの独壇場であったものが、このところの財閥解体、排ガス規制、等で日本勢が最新型を投入して来ることで、韓国各社は苦しい戦いが始まるといわれている。

又、韓国政府の中古車輸入の規制が厳しくなったことも、新車販売に拍車をかけていると言われていた。

ただ、韓国製との販売価格差は大きく、日本勢としては、この差を性能、機能、サービスなどでどこまでユーザのニーズをつかむ事ができるかが要となろう。

この為日本メーカー各社は、代理店の強化、新規契約などを進めており、コマツはJ U N J I N、日立はS O O S A Nと組むなど、大手代理店との契約が目立つ。

これらの動きは全てここ2年間で行なわれていて、各社の韓国市場への注目度が高まっていることを示すものである。

一方韓国メーカーは、今後日本メーカーの競争に巻き込まれて行くことになるが、先進技術での遅れ、又従来あった財閥の支援が無くなること等から、生き残りが厳しい状況に立たされることになる。 将来、改めて日本メーカーとの協力関係が再構築されるかも知れない。

### 3. プレゼンテーション

海外展示会主催者（CONEXPO, INTERMAT, M&T EXPO, BAUMA CHINA）は、出展者向けプレゼンテーションを行い宣伝に努めていた。

建機工も日本の経済状況、建設機械市場についてのプレゼンを行なった。（これに先立ち 徳永常務から建機工の概要説明が行なわれた） 会場は約 50 名程度でほぼ満席で、質問も活発に行なわれ、日本への関心が高いことを示していた。

### 4. その他

前回同様に今回も屋内展示のみであり、出展者からは、やはり屋外での実演が欲しいとの声も聞かれた。

以上

（文責：J CMA 業務部 国際業務担当部長 天野 裕一）